

取材のお願い

外国人研究者から見たコロナ禍の日本 ～コロナ社会のあり方・国際交流について考える～

国際交流基金は、コロナ禍を日本で過ごした外国の日本研究者が、日本人が新型コロナをどう受け止め、日本がどのように変化したのかを、それぞれの専門分野の視点から論じる動画シリーズを配信しています。

国際交流基金では毎年、海外の日本研究者を日本に招へいしています。今年はコロナ禍で多くの外国人が自国に帰る中、日本に残って研究を続けることを選択した外国人研究者もいました。そんな彼らが、外国人の視点から、またそれぞれの専門分野の視点から、実際に見たコロナ禍の日本を紹介することで、ポスト・コロナ社会のあり方、そして国際交流の未来について考える機会を作ります。

全6回を予定している動画では、歌舞伎町の多様な文化の研究者、神保町の本流通の研究者、日本の若者のSNS使用の研究者等、毎回さまざまな分野の研究者がゲストとして登場します。ナビゲーターは、イラン出身で女優やボランティア活動など幅広く活動するサヘル・ローズさんが務めています。



記

事業名称 : ポストコロナ世界における「分断と交流」～外国人研究者が見たコロナ禍の日本～
主催 : 国際交流基金
ナビゲーター : サヘル・ローズ

主な内容 : 第1回「歌舞伎町と新型コロナ」
ナサニエル・スミス (アリゾナ大学助教授)
<https://youtu.be/JzJpQ63BsVA>

第2回「本、身体、パンデミックの都市:神保町と新型コロナ」
スーザン・テイラー (ハーバード大学博士課程)
<https://youtu.be/sijWUkSfAEI>

<以下、随時更新>

第3回「デジタルの『ニューノーマル?』 コロナ禍の日本におけるSNSの役割」
キンバリー・ハッセル (プリンストン大学博士課程)
2020年12月公開予定

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当 : 熊倉、原田)
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp



ま
る
っ
か
も
し
れ
で
本
か
け
に
る
な
き
新
現
在
の
視
点



第4回 マーヴィン・スターリング（人種と民族、インディアナ大学准教授）
2021年1月公開予定

第5回 ルイズ・クレール・ワグナー（オリンピックと都市、パリ・ナンテール大学博士課程）
2021年2月公開予定

第6回 キアラ・パヴォーネ（震災後の日本文学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士課程）
2021年3月公開予定

プロフィール：

ナサニエル・スミス（Nathaniel Smith）

アリゾナ大学助教授。専門は人類学、都市研究、ナショナリズム研究。次回著作“Kabukicho Renaissance: Multiculturalism, Marginality, and Urban Renewal in Tokyo” 執筆に向け、2019年度国際交流基金日本研究フェロースhipにより来日し、新宿・歌舞伎町を中心とするフィールドワークを実施。イェール大学で博士号取得（2011）。アメリカ合衆国出身。

スーザン・テイラー（Susan Taylor）

ハーバード大学博士課程在籍。専門は都市社会と知的文化の歴史。2019年に国際交流基金日本研究フェロースhipで博士論文執筆者として来日、現在も東京大学で研究中。執筆中の博士論文のテーマは「古本と歴史の市場：神保町の民族学」。ジョージタウン大学卒業、東京大学大学院学際情報学府修士課程修了（2012）。アメリカ合衆国出身。

キンバリー・ハッセル（Kimberly Hassel）

プリンストン大学博士課程在籍。専門は若者文化とソーシャルメディア。2019年8月から一年間、国際交流基金日本研究フェロースhipで博士論文執筆者として来日、10～20代の若者へのインタビューを中心にフィールドワークを実施。博士論文のテーマは「日本の若者世代におけるネット社交性、自己ブランディング、およびスマホ文化」。ダートマス・カレッジ卒業。アメリカ合衆国出身。

マーヴィン・スターリング（Marvin Sterling）

インディアナ大学准教授。専門は人種、ディアスポラ研究。現在の研究プロジェクト「アフリカ・日本の「ハーフ」の経験を語る—現代日本における人種、国家と多極化したグローバリゼーション」に向け、2019年に国際交流基金日本研究フェロースhipにより来日し、アフリカ系日本人を対象とするインタビュー調査を中心にフィールドワークを実施。UCLAで博士号取得（2002）。ジャマイカ出身。

ルイズ・クレール・ワグナー（Louise Claire Wagner）

パリ・ナンテール大学博士課程在籍。専門は都市研究。2019年10月から1年間、国際交流基金日本研究フェロースhipで博士課程論文執筆者として来日、オリンピックを目前に控えた東京でフィールドワークを行い、現在も滞在中。執筆中の博士論文のテーマは「東京、パリ：二つの大都市とオリンピック競技大会」。写真家としても活動中であり、2020年秋に開催した「東京好奇心 2020 渋谷」に作品を出展した。自身のウェブサイト（<https://www.louiseclairewagner.com/>）にも作品を掲載している。スイス出身。

キアラ・パヴォーネ（Chiara Pavone）

カリフォルニア大学ロサンゼルス校博士課程在籍。専門は日本文学。2019年9月から1年間、国際交流基金日本研究フェロースhipで博士論文執筆者として来日、東日本大震災が日本文学に与えた影響を研究し、現在も研究滞在中。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



ま っ 本 で 新
せ か か を 現 た
ん も け 見 在 な
し に る の 視
れ な き 日 点



中。博士論文のテーマは「拡大される『フクシマ』・東北の外と内の震災後文学、2011年－現在」。ポーロニャ大学卒業、ヴェネチア大学カ・フォスカリ修士課程修了(2015)。イタリア出身。

サヘル・ローズ (Sahel Rosa)

1985年イラン生まれ、8歳で来日。高校生の時から芸能活動を始め、数々の舞台や映画で主演を務める。イタリア・ミラノ国際映画祭にて最優秀主演女優賞を受賞。自身が孤児だったことや外国人として日本で育った経験から、国内外での児童養護施設や難民の支援にも幅広く取り組んでいる。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



KUMAKURA

で新たな視点
本を現在の視点
っかを見るの
るかもけにる
ません。しな
れな